

I 春期闘争に際して 我が党は訴える

革命的祖国敗北主義を 貫き、今春期革命的 戦闘争の一大決起を組 織する圧倒的政治煽動 戦をくり広げよ！

中央委員会 政治局

今日、ソ・米覇権争の強まりは緊張緩和(デタント)・国際的軍備縮小(SALT)がもたらした空文句にすぎないことを全世界人民の前に明らかにし、いよいよ第三次帝国主義戦争の危険性が増大している。

七〇年代中期よりソ連は、覇権主義を強めアフリカ・中東での影響力を拡大し、ベトナムのカンボジア侵攻に積極的に加担し、又昨年末にアフガニスタンに武力侵攻し、カライ政権を打ち立て完全には勢力圏への組み込みをはかっている。これに對抗して米帝は巻き返しをはかり、新カスター・ドクトリン、国防報告等によって軍備増強をおし進めている。又最近、パレチをエジプトに送り込むと同時に、ソマリア・オマーン・ケニアに基地を提供させている。しかしソ・米覇権争を対抗する第三世界人民とソ連は、アフガニスタン・カンボジア・朝鮮人民の反帝反侵略闘争の国際人民戦争は、大高揚を形成して、戦争策動に對抗し、革命の要素を増大させている。

特に朝鮮人民の自主的平和統一の闘い、とりわけ南半部の維新勢力一掃の民族民主革命が前進している。この闘いは、共和国の「南北対話」の呼びかけを、南半部の維新勢力が自己の延命のために受け入れざるを得ない情勢を作り出している。しかし彼らはこの「南北対話」の開始によって民族民主革命の前進をおとしめ、大統領選に集約するための「時間かせぎ」を画策している。かつてポプラ伐採事件、ゲリラトンネルのデッチ上げによって南北対話の気運を打ち壊したように、今また一連の「ゲリラ摘発」、共和国の船舶への攻撃、そして三八度線での

発砲という軍事挑発を強め「南北対話」を打ち壊し、「反共宣伝」によって大統領選を乗り切らんとしている。

このような朝鮮情勢の激化に対して日帝は、南半部における自らの権益擁護のために、侵略反革命・出兵策動を強め、米日韓共同の戦争準備を強めている。同時に、ソ連の、アジアへの覇権主義的伸長に對抗するため米帝と結びついて、自らの対抗するため米帝と結びついて、自らの帝国主義的権益擁護と体制的危機を、労働者階級・人民の戦争動員によって突破せんとし、増々帝国主義戦争の準備を強めている。それがリムバックへの海上自衛隊の参画である。これは日米安保体制の拡大・強化を基礎にチムス・ピリット等でおし進めていた米日韓共同軍事行動を強め、ANSAと結合させ西太平洋全域まで自衛隊の行動範囲、防衛範囲を拡大していくものである。又、ソ連の「防衛二法」の有事体制化、軍事機密保護法の上程・成立による有事体制の確立、軍政と軍令の分離・自衛隊の政府からの独立化、「徴兵制」や「行政改革・綱紀粛清」の名による官僚の戦争体制への再編・強化、総じて国家権力の軍事的支柱の増強が強力に推進されている。

又、ソ・公・民は、自衛隊の承認、日米安保体制の擁護を契機に、体制的危機突

破へ一丸となり、ブルジョア階級独裁の擁護「連合政権」への道を開いている。公然たるブルジョア的労働者階級の結成をデコに、労働者階級の利益のための右翼的「労働統一」をおし進めている彼らの、この「連合政権」構想は、日帝の戦争準備・挙国一致へと労働者階級・人民を導いていくものにはかならない。

準備・挙国一致へと労働者階級・人民を導いていくものにはかならない。

ソ・米・日の帝国主義間戦争の接近という、情勢の急激な、歴史的転換を眼前にして、この情勢に正しく対応せず、反動物へ転落した諸政治勢力は、欺瞞のペールでプロレタリア階級・人民を欺いている。

第一は「毛派」である。彼らは、この戦争が、相互の帝国主義的競争の競争であることを見ず、あるいは意識的に見ようとせず、ブルジョア階級の「反ソ」を擁護し、戦争準備・挙国体制づくりの随伴者になり下っている。では、この接近しつつある戦争の真の性格は何か。一言でいえば、奴隷制強化のための奴隷主の強盗戦争である。それは以下の三点から明らかである。第一に、植民地をいっそう「公平」に分配し、「仲よく」搾取することによって植民地の奴隷制を強化するための戦争であり、第二に、大帝国自身内他民族に対する抑圧を強化するための戦争であり、第三に資金奴隷制を強化し延命させるための戦争である。つまりプロレタリアートは分裂させられ、おさえつけられているのに、資本家は戦争で金もうけをし、民族の偏見をあらためて、反動を強化することに利用しているからである。

彼らは、不思議なことに日本帝国主義の朝鮮侵略反革命・出兵策動の可能性はないとし、ソ・米・日の対抗が持つ植民地をめぐる帝国主義的権益の擁護の側面を不当に過小評価し、ソ連の侵略反革命の可能性のみを宣伝する社会愛國主義として自らを純化している。当然にも社会愛國主義が労働運動におけるブルジョア政策をあらわし、小ブルジョアの利益をあらわし、プロレタリア大衆・被搾取労働大衆の利益をあらわし、労働者階級が「自国」のブルジョアと結ぶ同盟をあらわしている。今日の「連合政権」右翼的「労働統一」の賛同者として、ソ・公・民への合流を開始している。彼らは、ソ連の

第三に第四インターは、ソ連のアフガン侵攻に、現在のソ連を「労働者国家」とし、その無条件擁護のもとで、「アフガン革命支援」といふ全面的賛美とし、ソ・米・日の戦争の性格を帝国主義戦争と見ず、米・日からする「反革命干渉戦争」として位置付け「侵略反革命に祖国敗北主義で対決する」と言っている。彼らは他方で、「祖国敗北主義」を掲げてブルジョア階級や「毛派」が掲げる「反ソ」祖國擁護に反対する勢力を糾合し、日共の動搖を「左」から支えつつ、ソ連の覇権主義的拡張を美化する「連ソ」勢力へと再編しようとしている。彼らは、今日の「連ソ」の中心勢力を形成しており、現代修正主義的戦闘的翼として立ちあらわれている。

第三に第四インターは、ソ連のアフガン侵攻に、現在のソ連を「労働者国家」とし、その無条件擁護のもとで、「アフガン革命支援」といふ全面的賛美とし、ソ・米・日の戦争の性格を帝国主義戦争と見ず、米・日からする「反革命干渉戦争」として位置付け「侵略反革命に祖国敗北主義で対決する」と言っている。彼らは他方で、「祖国敗北主義」を掲げてブルジョア階級や「毛派」が掲げる「反ソ」祖國擁護に反対する勢力を糾合し、日共の動搖を「左」から支えつつ、ソ連の覇権主義的拡張を美化する「連ソ」勢力へと再編しようとしている。彼らは、今日の「連ソ」の中心勢力を形成しており、現代修正主義的戦闘的翼として立ちあらわれている。

第三に第四インターは、ソ連のアフガン侵攻に、現在のソ連を「労働者国家」とし、その無条件擁護のもとで、「アフガン革命支援」といふ全面的賛美とし、ソ・米・日の戦争の性格を帝国主義戦争と見ず、米・日からする「反革命干渉戦争」として位置付け「侵略反革命に祖国敗北主義で対決する」と言っている。彼らは他方で、「祖国敗北主義」を掲げてブルジョア階級や「毛派」が掲げる「反ソ」祖國擁護に反対する勢力を糾合し、日共の動搖を「左」から支えつつ、ソ連の覇権主義的拡張を美化する「連ソ」勢力へと再編しようとしている。彼らは、今日の「連ソ」の中心勢力を形成しており、現代修正主義的戦闘的翼として立ちあらわれている。

第三に第四インターは、ソ連のアフガン侵攻に、現在のソ連を「労働者国家」とし、その無条件擁護のもとで、「アフガン革命支援」といふ全面的賛美とし、ソ・米・日の戦争の性格を帝国主義戦争と見ず、米・日からする「反革命干渉戦争」として位置付け「侵略反革命に祖国敗北主義で対決する」と言っている。彼らは他方で、「祖国敗北主義」を掲げてブルジョア階級や「毛派」が掲げる「反ソ」祖國擁護に反対する勢力を糾合し、日共の動搖を「左」から支えつつ、ソ連の覇権主義的拡張を美化する「連ソ」勢力へと再編しようとしている。彼らは、今日の「連ソ」の中心勢力を形成しており、現代修正主義的戦闘的翼として立ちあらわれている。

第三に第四インターは、ソ連のアフガン侵攻に、現在のソ連を「労働者国家」とし、その無条件擁護のもとで、「アフガン革命支援」といふ全面的賛美とし、ソ・米・日の戦争の性格を帝国主義戦争と見ず、米・日からする「反革命干渉戦争」として位置付け「侵略反革命に祖国敗北主義で対決する」と言っている。彼らは他方で、「祖国敗北主義」を掲げてブルジョア階級や「毛派」が掲げる「反ソ」祖國擁護に反対する勢力を糾合し、日共の動搖を「左」から支えつつ、ソ連の覇権主義的拡張を美化する「連ソ」勢力へと再編しようとしている。彼らは、今日の「連ソ」の中心勢力を形成しており、現代修正主義的戦闘的翼として立ちあらわれている。

第三に第四インターは、ソ連のアフガン侵攻に、現在のソ連を「労働者国家」とし、その無条件擁護のもとで、「アフガン革命支援」といふ全面的賛美とし、ソ・米・日の戦争の性格を帝国主義戦争と見ず、米・日からする「反革命干渉戦争」として位置付け「侵略反革命に祖国敗北主義で対決する」と言っている。彼らは他方で、「祖国敗北主義」を掲げてブルジョア階級や「毛派」が掲げる「反ソ」祖國擁護に反対する勢力を糾合し、日共の動搖を「左」から支えつつ、ソ連の覇権主義的拡張を美化する「連ソ」勢力へと再編しようとしている。彼らは、今日の「連ソ」の中心勢力を形成しており、現代修正主義的戦闘的翼として立ちあらわれている。

第三に第四インターは、ソ連のアフガン侵攻に、現在のソ連を「労働者国家」とし、その無条件擁護のもとで、「アフガン革命支援」といふ全面的賛美とし、ソ・米・日の戦争の性格を帝国主義戦争と見ず、米・日からする「反革命干渉戦争」として位置付け「侵略反革命に祖国敗北主義で対決する」と言っている。彼らは他方で、「祖国敗北主義」を掲げてブルジョア階級や「毛派」が掲げる「反ソ」祖國擁護に反対する勢力を糾合し、日共の動搖を「左」から支えつつ、ソ連の覇権主義的拡張を美化する「連ソ」勢力へと再編しようとしている。彼らは、今日の「連ソ」の中心勢力を形成しており、現代修正主義的戦闘的翼として立ちあらわれている。

第三に第四インターは、ソ連のアフガン侵攻に、現在のソ連を「労働者国家」とし、その無条件擁護のもとで、「アフガン革命支援」といふ全面的賛美とし、ソ・米・日の戦争の性格を帝国主義戦争と見ず、米・日からする「反革命干渉戦争」として位置付け「侵略反革命に祖国敗北主義で対決する」と言っている。彼らは他方で、「祖国敗北主義」を掲げてブルジョア階級や「毛派」が掲げる「反ソ」祖國擁護に反対する勢力を糾合し、日共の動搖を「左」から支えつつ、ソ連の覇権主義的拡張を美化する「連ソ」勢力へと再編しようとしている。彼らは、今日の「連ソ」の中心勢力を形成しており、現代修正主義的戦闘的翼として立ちあらわれている。

第三に第四インターは、ソ連のアフガン侵攻に、現在のソ連を「労働者国家」とし、その無条件擁護のもとで、「アフガン革命支援」といふ全面的賛美とし、ソ・米・日の戦争の性格を帝国主義戦争と見ず、米・日からする「反革命干渉戦争」として位置付け「侵略反革命に祖国敗北主義で対決する」と言っている。彼らは他方で、「祖国敗北主義」を掲げてブルジョア階級や「毛派」が掲げる「反ソ」祖國擁護に反対する勢力を糾合し、日共の動搖を「左」から支えつつ、ソ連の覇権主義的拡張を美化する「連ソ」勢力へと再編しようとしている。彼らは、今日の「連ソ」の中心勢力を形成しており、現代修正主義的戦闘的翼として立ちあらわれている。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

政治闘争の大胆な組織化が要求されている

革命的政治闘争が、戦争と革命をめぐる問題で、労働者階級を訓練し、教育し、その態度を整えさせるためには不可欠であること、今日ほど明らかにしている時代はない。それは、全国的に闘われている反戦・反安保闘争の高揚の中で、より一層労働者階級・人民の積極性を引き出し、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯と、日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命に結びつけ、打ち固め、反ソ愛國主義との政治的・組織的な一線を画すと同時に、小ブル平和主義の「反戦闘争」の限界を突き破り、革命的政治闘争を構築することを、通して、彼らをして変更せしめ、われわれの側に引きつけていくことである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

反戦闘争をめぐる急民政治と革命的

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

今日、日帝の戦争準備と連動した反ソ社会愛國主義の跳梁、小ブル平和主義のなだれをうった混迷が生み出される中で、反ソ反米反覇権の国際人民戦争との連帯や、反戦・反安保闘争を闘い抜いていく先進的労働者・人民も生まれている。われわれは彼らの闘いを社会主義革命に結びつけた革命的戦闘争として組織していくことの重要性を訴えなければならぬ。今日の革命の宣伝・煽動戦の中心は、帝国主義戦争の接近と日本階級戦争の歴史的転換を明らかにすることであり、日帝の体制的危機を救済するブルジョア的労働者階級の結成と「連合政権」「右翼的労働統一」の階級的性質をつかみ出し、先進的労働者との結合を深め、帝国主義戦争の接近による日帝の戦争準備と反動の熱望に、一大打撃を与えるものである。

学生運動の奔流を形成しよう！

全国の闘う学友諸君！ 戦争と革命の嵐の時代！ 80年代階級闘争の鉄火の中で我々は、混乱と分散の70年代学生運動に正しくピリオドを打たねばならない。帝国主義の戦争と反動、差別と搾取の激化は300万学生を人民闘争の荒波に投げこまずにはおかない。我々は、昨年7月闘い取られたマルクス・レーニン主義党の中核隊と共産同(革命の旗に固く結合し革命的学生運動再建の任務を完遂すべく、各部署で闘いを組織している。全国各学園で権力・当局・社帝による学生運動破壊に抗し、熱き血潮を燃え立たせる友人達！ 学生運動の奔流形成めざし、共に闘い抜こう！

学生運動の新たな昂揚への胎動は始まった！

だがこの苦闘の時代にあつても
大学当局や社帝派の弾圧・統制・
妨害をはねのけ、三里塚の闘う農
民と連帯する闘いや、部落解放同
盟と連帯して反差別共同闘争の一
翼を担い、学園内での狭小闘争―
反差別闘争を推し進める闘いや、
史上は戦闘的・階級的労働運動と
結びつこうとする試みが、くり返
し、執拗に持続され、又急進民主
主義の限界を思想的に脱却しよう
とする努力が追求されたのである。
そして今ようやく、学生運動は

級・人民は「朝鮮侵略反革命と主
国主義戦争に反対する闘争、反美
化に反対する闘争、差別に反対す
る闘争、搾取・収奪・抑圧に反対
する闘争などを激化させ」(綱領
草案)、ブルジョア階級独裁との
対決を先鋭化させている。

「インテリゲンチアの中でも
っとも敏感な部分(レーニン)で
あり、又、直接・間接にブルジョ
ア階級に支配されている学生は、

革命的学生運動再建に

大胆に着手しよう！

七〇年以降、とりわけ七五年イ
ンドシナ三国人民の抗米救国―民
族解放闘争の勝利に象徴される第
二世界人民の反帝民族解放闘争の
歴史的前進、と同時にその内部矛
盾へのソ社帝の介入とそれに結び
ついたベトナムの拡張主義への転
落―カンボジア侵略、更にはアフ
ガニスタンへの直接の軍事侵略に
みられるソ社帝の覇権主義の全面
化とソ・米覇権争奪の激化、そし
て国内階級矛盾の急激な拡大・激
化―プロレタリア階級の階級闘争
の前進によって一層体制的危機を
決めるブルジョア階級は、国
大
学当局や社帝派の弾圧・統制・
妨害をはねのけ、三里塚の闘う農
民や、部落解放同盟、更には反原
発、反基地闘争を闘う人民に連帯
する闘いや、四・二〇文部次官直
達―「新大管法」制定策動に象徴
される、学生の自主的活動、民主
的・政治的権利の制限の強化に反
する闘争を拡大し始めている。

社会主義に向けて団結し、
混沌と分散に今こそ終止符を

この対立を深めている。
この様に進行する学生運動の分
岐と対立は、「学生が」だれより
も意識的に、だれよりも決定的に、
なれよりも正確に、社会全体にお
ける階級利害と政治的グループ分
裂との発展を反映し表現する「レ
ニン」からであり、われわれは
帝党派が、プロレタリア階級・人
民の階級的な敵であり、又、学生
運動に対しても、その階級の本質
に、当局の学生支配の代理人・

尖兵であることをはっきりと暴露
し、「帝國主義（社会帝國主義）
と社会主義の分裂（レニン）を
促し、強めていかねばならない。

修正主義に道を開 く第四インター

以上の見地から見たとき、第四
インター諸君の絶対的原則にまつ
りあげられた「内ゲバ主義反対」
のスローガンと「大平自民党政府

修正主義に道を開

更に、われわれは、中核派、解
彼らは、学園闘争の急進化や、
それに三里塚闘争、狭山闘争等
民闘争を接し、拡大すること
延長上に日帝打倒を展望するこ
によって、学生大衆の民主的憤
激や決起に全面的に拝跪し、社会
義的教育と思想的、政治的、階

の急進民主主義
とセクト的独善

クマル」に対する戦術的態度が、
あたかも「革命と反革命の分岐」
としてとらえる（民主主義闘争のの
戦術の急進化で革命を展望する以
上、これは当然であるうが、故にこ
「囲い込み」とセクト的独善を全
面化し、学生大衆の多数を組織し
指導することができず、闘争の大ど
爆発、高揚を作り出すことはでき
ない。これは、彼らの「全学連」
の形骸化を見れば明らかだろう。

ブンド系急進民主主義諸派

又、ブンド系の多くも、急進民
々々を残存させ、縮小再生産を
繰り返している。(ブンド系諸派
の批判は、本紙「軍一のマルク
・レーニン主義党創建のための
戦」(参照)彼らは、依然として
分達の学生戦線を「反帝戦線」
と位置づけることに見られ、
様に、反動と戦争に対する学
問に、同時に、こうした学
生の闘いをわが国の社会主義革命
の発展に正しく結びつけ、その一
翼へと育て上げることが放棄し、
現在の人民闘争への様々な学生の
決起に「反帝国主義」「内乱」の独
善的な政治的意味付与をすること
に安住の地を見出し出しているの
である。

一戦線の確固とした一翼と学生
運動の発展させなければならない
「(革命の旗二号)」という、われ
われの主張に対して、「学生運動
を労働運動の尻押し部隊とする労
働者本隊論」「革マルの『学生の
労働者としての自己形成』論と同
列」(鉄の戦線「五号」)と批判し
ている。これは、社会主義革命を

人民闘争の荒波の中で、
社会主義的学生の隊列を創出せよ

「学生のあいだにおける活動を義務とする社会民主主義者は、かならず自分で、または自分の代理を通じて、できるだけ多数の、できるだけ広範な「純学生」サークルや、学習サークルの中へ入ってこうと努力し、たんに学園の自己だけを要求する人々の視野を広くと努力し、また、なんらかの綱領をさがし求めている人々のあいだでは、ほかならぬ社会民主主義の綱領を宣伝しようと努力するであろう」(レーニン)

そうだ！われわれは帝国主義が戦争と反動への渴望を高めれば高くなるほど、不可避免に呼び起さざるをえない学生に対する政治的民主的諸権利の剝奪に抗し闘いに決起している先進的學生の中へ、そしてそれを見守る広範な学生大衆の中に深くわけいって、巨大な決起を闘いとり、確固とした革命党と結びついた巨万の社会主義的學生の家族を創出していかねばならぬ

共産同(革命の旗) 中央学生組織委員会

今日の戦争と革命の時代がいよいよ深まり、日帝の帝国主義戦争の本格的準備が社会の全領域を卷込み進行する下で、われわれは

先進的学生の進むべき道は何か

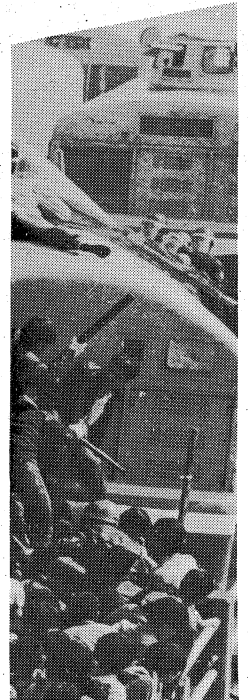
戦の爆発が示したように、日本階級闘争の最前戦には常にわが学生戦線の赤旗がひるがえっていた。この革命的伝統を断固として継承し発展させねばならないのである。この多くの先輩達が作り上げてき

ねばならない。更に、米帝のソ社帝との全世界的覇権争奪の一角を担つて自己の帝国主義的地位の分け前の拡大を狙っていることを全面的に暴露し、この日帝の戦争が帝国主義強盗戦争以外の何ものでもないことを明らかにしてゆき、

ブンド学生戦線の伝統を復権し、
革命的反戦闘争の最前線へ！

争の勝利をめざし決起していか
る。そうならない。四・二〇文部次官
達を粉砕し三里塚闘争へ革命的
生戦線の隊列を登場させよ！
そして、こうした人民闘争の発
動の中で自らの力量を蓄積しつ
つ、フルジョア階級の反動的教育再編
に抗拒し、又学生管理支配の強化に
決起し新たな胎動を開始した各学
校における学園闘争を発展させ、
これを帝国主義・社会帝国主義の
「妨害・統制から防衛し、他
急進民主主義のセクト的独善
場を準備しよう！」
全力で八〇年代学生運動の大高

働者階級の階級闘争・プロ独でもたらしている、大規模な搾取・収奪の系統的組織化、軍備拡張、労働組合の産報化や、これと結びついた反動的諸攻撃の激化、差別・抑圧の強化と拡大、そしてわれわれが直面している、大学・教育の帝国主義的再編、民主的諸権利の剝奪、社帝派を動員しての運動破壊等に抗して人民闘争の全領域へ学生が決起を組織していかねばならないのである。そして人民闘争を通じてプロレタリア階級・被差別大衆との共同した闘いを發展させ、現実の階級闘争の渦中で学生大衆の政治的・思想的・階級的成長を促していかねばならない。こうして形成された、広々とした人民闘争の舞台へ、実際の政治生活へ広範な学生大衆を登場せしめ、プロレタリア階級独裁・社会主義革命の宣伝・煽動を持ちこみ、わが同盟「革命の旗」の下へ結束し社会主義統一戦線の確固とした一翼としての革命的學生運動を構築していかねばならない。



右翼的「労戦統一」に抗する闘いの試金石

——本山闘争——

悪くつ極まりない本山資本の暴力ガードマン導入、別棟就労攻撃等々ありとあらゆる攻撃と闘い、しかも昨年四月三日の全金宮城地本からの処分攻撃、そして十一月三日の全金中央からの除名処分攻撃と同時進行した渋谷前委員長らの組合分裂策動がなされ、総評内最左派に位置する全金金属の右傾化の嵐を一身に浴びながら今日も闘い抜いている。

4.11 新労組支援を強化し 神奈川集会の成功を

本年二月八日、三五名の団結をもつて立ち上がった新労組「全金本山労働組合」(八重樫委員長は去る三月三日、二十四日、新労組結成後の全金闘争一仙台現地闘争を二〇〇名の結集で闘い抜いた。

こうした状況で開かれた「三・三全金本山闘争勝利」全国交流集会は、動労千葉、大和製作、田中君を支援する会、はじめとする全国の闘争組合、支援労働者多数を集め、会場にはその熱気が充満していた。

基調において、二年半ぶりの団交の成果を確認すると同時に、本山資本を追いつめるために、あらゆる方面から闘いをさらに強めることが提起された。また、今日、進行する労働運動の右傾化に抗する闘いを本山闘争勝利に不可欠な闘いと位置づけ、さらに三里塚、女川原発等に代表される闘争農民・漁民また反差別闘争との連帯を強めていく決意がのべられた。

この間、右翼的「労戦統一」に抗する闘いの試金石として、今こそ全金本山闘争に注目し全国に本山勝利に向けた支援体制をガッチリ構築しなければならぬ。とりわけ定期カンパ体制、日常物資販売体制の確立に向け奮闘しなければならぬ。そして三・一五東京集会、ひきつづき四・一二神奈川集会をぜひとも成功させよう。

馬山・枚岡を結ぶ闘いの前進

一方馬山では、日本資本は朴政権から、企業防衛のための施策をあらゆる手段でひき出し、徹底した無権利・抑圧の下に、強奪取をほしつづけている。とりわけ韓国・馬山労働者の闘いと、韓国でのインフレ・不況深化・輸入材料価格騰貴等によって、中小資本は韓国労働者の首切り・賃金未払い・企業整理等をもって撤退を開始し、逆に大資本はそうした企業群を吸収・肩代りするなど、その直接支配を強めた。その一例として、大鵬産業は土地売買の不正により韓国フルサト工業に吸収・合併され、フルサト工業・本社大阪、主力工場滋賀)は、大鵬産業社長・北井に代って韓国大鵬労働者の首切りと、事件もみ消しを請負い、そっくり吸収したのである。そして北井はフルサト工業の株主となって、現在でも馬山からの配当で私腹をこやしている。

こうした事態に對して、全金大鵬産業支部は、全金フルサト工業の仕掛人である商社「日本独占」を、日韓経済戦争の演出者である「馬山」での侵略実態の糾明と争議勝利は一体である。との観点を踏まえ、七八年三・三集会の勝利へと突き進んだ。

三・三集会以降、先進的労働者や民間中小・争議組合のみならず東大阪出身の「政治犯」李東石を救援する会や、日韓問題を考える東大阪市民の会「八尾一般事務職

の仕掛人である商社「日本独占」を、日韓経済戦争の演出者である「馬山」での侵略実態の糾明と争議勝利は一体である。との観点を踏まえ、七八年三・三集会の勝利へと突き進んだ。

日韓労働者は共に進み敵を撃つ！

——東大阪・枚岡の闘い——

三月三日、東大阪府布施で、「韓国侵略商社糾弾 馬山労働者連帯・全金枚岡闘争勝利」集会が、地域のほとんどの労組から五百名の労働者を結集して闘い取られた。今回の集会は、七八年の全金枚岡闘争支援と、韓国馬山への企業侵略実態糾弾を眼目とした、全金枚岡への首切り合理化粉砕、韓国侵略商社糾弾、井物産・日商岩井糾弾、三・三東大阪集会、それに続く地域共闘一連の闘いの中で、七九年四月・十三「全金枚岡闘争支援・韓国侵略商社糾弾」労働者連帯、東大阪集会、そして大鵬産業支援強化と韓国馬山労働者の決起連帯をめざした闘いの発展

と、七九年十一月「韓国労働運動支援・全金枚岡闘争勝利」韓国馬山労働者の決起に連帯を日韓連帯東大阪集会を継承し、馬山労働者への連帯と争議勝利を一体のものとして、共通の敵「侵略・独占商社」への攻勢的闘争への地歩を打ち固めるものとして闘い取られた。とくに今回の集会では、大鵬産業の攻勢的着目と同時、全金フルサト工業(滋賀)や繊維労連坂本紡績労組からの決意表明・メッセージに示されるように、韓国侵略をテコとした合理化・倒産に抗する関西の労組が勢揃いして共同戦線を形成したこと、更に、争議や「政治犯」救援会等が日韓労働者連帯にまで高まっ

た地域共闘の成果にふまえ、最近の中小日本企業の撤退と直接支配を深める日本独占商社による再編構造の下で、日韓労働者の共通の敵と、共通の要求を具体的に掲げた闘いへの前進が確認された。

枚岡の労働者の闘いは、今、「朝鮮南部」と日本の労働者の連帯の意味を深くとらえつつあり、すべての自覚した労働者によって学び取られ、共有されるべき闘いである。以下、大阪の同志諸君の報告を掲載し、闘いの教訓の一端を報告したい。

「朝鮮南部」と日本の労働者の連帯の意味を深くとらえつつあり、すべての自覚した労働者によって学び取られ、共有されるべき闘いである。以下、大阪の同志諸君の報告を掲載し、闘いの教訓の一端を報告したい。

「朝鮮南部」と日本の労働者の連帯の意味を深くとらえつつあり、すべての自覚した労働者によって学び取られ、共有されるべき闘いである。以下、大阪の同志諸君の報告を掲載し、闘いの教訓の一端を報告したい。

「朝鮮南部」と日本の労働者の連帯の意味を深くとらえつつあり、すべての自覚した労働者によって学び取られ、共有されるべき闘いである。以下、大阪の同志諸君の報告を掲載し、闘いの教訓の一端を報告したい。

「朝鮮南部」と日本の労働者の連帯の意味を深くとらえつつあり、すべての自覚した労働者によって学び取られ、共有されるべき闘いである。以下、大阪の同志諸君の報告を掲載し、闘いの教訓の一端を報告したい。

防衛から反撃へ！

一時期ズルズルと後退を強いられた労働者は、だがここから新たな反撃を開始し、枚岡全支部が一体となって「企業解散・全員解雇の白紙撤回・即時工場再開」を要求し、自主生産を行なうが、行政闘争・生活確保と、地味な要求をめぐり、更に、背景資本「三井物産・日商岩井・神戸太陽銀行」をひきつり出し、包囲する闘いを繰り広げ(富士精練では日商岩井をひきつり出し、屈服させて事業再開に勝利)、枚岡闘争支援共闘の発足を果たした。

「朝鮮南部」と日本の労働者の連帯の意味を深くとらえつつあり、すべての自覚した労働者によって学び取られ、共有されるべき闘いである。以下、大阪の同志諸君の報告を掲載し、闘いの教訓の一端を報告したい。

「朝鮮南部」と日本の労働者の連帯の意味を深くとらえつつあり、すべての自覚した労働者によって学び取られ、共有されるべき闘いである。以下、大阪の同志諸君の報告を掲載し、闘いの教訓の一端を報告したい。

「朝鮮南部」と日本の労働者の連帯の意味を深くとらえつつあり、すべての自覚した労働者によって学び取られ、共有されるべき闘いである。以下、大阪の同志諸君の報告を掲載し、闘いの教訓の一端を報告したい。

「朝鮮南部」と日本の労働者の連帯の意味を深くとらえつつあり、すべての自覚した労働者によって学び取られ、共有されるべき闘いである。以下、大阪の同志諸君の報告を掲載し、闘いの教訓の一端を報告したい。

「朝鮮南部」と日本の労働者の連帯の意味を深くとらえつつあり、すべての自覚した労働者によって学び取られ、共有されるべき闘いである。以下、大阪の同志諸君の報告を掲載し、闘いの教訓の一端を報告したい。

「朝鮮南部」と日本の労働者の連帯の意味を深くとらえつつあり、すべての自覚した労働者によって学び取られ、共有されるべき闘いである。以下、大阪の同志諸君の報告を掲載し、闘いの教訓の一端を報告したい。

「朝鮮南部」と日本の労働者の連帯の意味を深くとらえつつあり、すべての自覚した労働者によって学び取られ、共有されるべき闘いである。以下、大阪の同志諸君の報告を掲載し、闘いの教訓の一端を報告したい。

「倒産」・解雇・組織破壊攻撃

枚岡地域に密集する線材地産産業は、その大半が三井物産・日商岩井の系列化にあつて、六〇年代急速に肥大した。と同時に、この過程で全金各支部が組織され、全金枚岡ブロックは西高東低といわれたその西にあつても、港ブロックと並ぶ戦力と強靱な組織力

を徹底的に抑圧し、強奪する資本のあくなき利潤追求であつたと同時に、日経連・関経協の指揮下で、全金枚岡ブロックを解体せんとする集中攻撃として計画されたのである。それ故に、馬山をテコとしたスクラップ・アンド・ビルドの嵐が吹き荒れ、企業閉鎖・人員整理・労働時間延長・組織破壊攻撃が激化し、七七年後半には日本企業のそれであり、馬山造成

を徹底的に抑圧し、強奪する資本のあくなき利潤追求であつたと同時に、日経連・関経協の指揮下で、全金枚岡ブロックを解体せんとする集中攻撃として計画されたのである。それ故に、馬山をテコとしたスクラップ・アンド・ビルドの嵐が吹き荒れ、企業閉鎖・人員整理・労働時間延長・組織破壊攻撃が激化し、七七年後半には日本企業のそれであり、馬山造成

を徹底的に抑圧し、強奪する資本のあくなき利潤追求であつたと同時に、日経連・関経協の指揮下で、全金枚岡ブロックを解体せんとする集中攻撃として計画されたのである。それ故に、馬山をテコとしたスクラップ・アンド・ビルドの嵐が吹き荒れ、企業閉鎖・人員整理・労働時間延長・組織破壊攻撃が激化し、七七年後半には日本企業のそれであり、馬山造成

を徹底的に抑圧し、強奪する資本のあくなき利潤追求であつたと同時に、日経連・関経協の指揮下で、全金枚岡ブロックを解体せんとする集中攻撃として計画されたのである。それ故に、馬山をテコとしたスクラップ・アンド・ビルドの嵐が吹き荒れ、企業閉鎖・人員整理・労働時間延長・組織破壊攻撃が激化し、七七年後半には日本企業のそれであり、馬山造成

を徹底的に抑圧し、強奪する資本のあくなき利潤追求であつたと同時に、日経連・関経協の指揮下で、全金枚岡ブロックを解体せんとする集中攻撃として計画されたのである。それ故に、馬山をテコとしたスクラップ・アンド・ビルドの嵐が吹き荒れ、企業閉鎖・人員整理・労働時間延長・組織破壊攻撃が激化し、七七年後半には日本企業のそれであり、馬山造成

を徹底的に抑圧し、強奪する資本のあくなき利潤追求であつたと同時に、日経連・関経協の指揮下で、全金枚岡ブロックを解体せんとする集中攻撃として計画されたのである。それ故に、馬山をテコとしたスクラップ・アンド・ビルドの嵐が吹き荒れ、企業閉鎖・人員整理・労働時間延長・組織破壊攻撃が激化し、七七年後半には日本企業のそれであり、馬山造成

を徹底的に抑圧し、強奪する資本のあくなき利潤追求であつたと同時に、日経連・関経協の指揮下で、全金枚岡ブロックを解体せんとする集中攻撃として計画されたのである。それ故に、馬山をテコとしたスクラップ・アンド・ビルドの嵐が吹き荒れ、企業閉鎖・人員整理・労働時間延長・組織破壊攻撃が激化し、七七年後半には日本企業のそれであり、馬山造成

SSK闘争は何を労働者に教えたか？



何が始まったのか

現在、造船労働者は不況一合理攻撃と、戦争準備・国策協力を強要されており、SSK労働者にとっても、これらが今後大きな脅威となるであろうことは予測に難くない。すなわち、造船重機・労働者は、佐世保が対馬海峡を望む日米帝の重要な戦略的要であり、軍港・艦船修理基地としてSSKが従来にもまして、重要性を帯びてくることと充分承知した上で、「闘争收拾」をはかつたのである。彼らの言うところの「民主的労働運動」や「近代労働関係」なるものは、まさしく「むつ受け入れに続いて、今後とも一層強力に「自衛隊には十分協力する」(国労労働会会長)という軍備増強・戦争協力のための「職場秩序の安定」に労働者を動員するものであり、こうした忠誠を誓うことにより、日帝からの同意を取りつけ、それを背景に坪内から譲歩を引き出したのである。

両刃のやいば

それはまず何よりも、同盟系労組の全一支配の中で、日々困難な闘いを続ける労働者大衆に限りない希望と勇気を与えるものであった。今日、民間基幹産業のほとんどを席巻したといつても過言ではない同盟・J・C支配下においても、彼らの支配が階級的利益にむき、そして又搾取と抑圧がある限り、絶対的闘いのほじまりを告知しているのである。

「中決算」と「南北対話再開」を押し上げた朝鮮人民の闘いは、四・一九周年を迎え新たな段階に入っている。他方、米・日帝と韓国支配層は三八度線武力挑発をもって、維新体制延期・南北分断固定化と侵略反革命戦争策動を強めている。日本階級闘争は今、日朝・日韓人民連帯の真価を問われている。

朝鮮情勢と日本階級闘争

六〇年四・一九から二〇周年を迎えた今日、朝鮮人民の民主統一の闘いは、新たな段階に入っている。反独裁・反封建・反侵略・反米帝の四原則と、行こう北へ、来たれ南へ」と統一を掲げたこの四・一九革命は、六一年五月十六日、朴正熙による軍事クーデターにより中断を強制された。しかし朝鮮人民・韓国人民の不屈の闘いは、昨年韓国全土を四・一九前後の情勢へと導き、ついにこの中で、権力内部の暗闘の末、射殺された。今、朝鮮人民は統一と民主を掲げ、四・一九の「未完の革命」の完遂へ向け、新たな歩みを開始した。

他方、日本国内では、リムパツクを決定的なメルクマールとして覇権争奪と侵略反革命の戦争体制が、加速度的に強化されている。とりわけ朝鮮出兵と、一層の新植民地主義的収奪、そして民族排斥主義攻撃が激化する中で、朝鮮人民の民主統一の闘いを支持・連帯し、戦争と侵略反革命をうち破る闘いは、文字通り日本階級闘争の帰趨を決するといつても過言ではない。今、四・一九闘争として五・六月闘争は、こうした意味で決定的に重要であり、この日本階級闘争の火急の任務に誰が、どのように応えようかが問われているのである。

四・一九未完の革命の完遂へ進む民主化闘争

朴正熙後、現在の韓国の政治情勢は、表面的には、大統領選と改憲論議を中心に進行している。

一月十一日、韓国の国会憲法改正特別委員は、民主共和、新民党の憲法改正試案を賛成し、三月末から四月始めにかけて、国会として統一案の作成、国民投票を行うと発表した。同時に、崔政権は金大中氏の公民権を回復し、金鐘泌・金泳三・金大中の三金の大統領選が実質的に開始された。しかしこうした改憲論議、政治発展なるものは、軍部の威嚇体制下でのものであり、更に韓国支配層は「四・一九革命」をぶちあげ、維新体制

の存続を露骨に表明している。

一方、民主勢力は、新民党の崔政権との対決姿勢や、金大中氏の崔政権批判を中心に、反維新体制・民主の広範な連合統一戦線へ向っている。とくに学生は、各大学での自治会の再建と、全国統一組織の形成を進め、労働者も、韓国

展させたものとして、①民主主義、②自立的民生経済、③民族統一を掲げ、体制の根本的打破への歩みは確実に開始されている。

激化する米・日帝、韓国支配層の戦争策動

他方、共和国政府は、一〇・二六以後の民主化闘争の前進と、これに対する米日韓三角軍事体制の 에스カルトという事態の中で、今年始め、再度の南北対話を提起した。とりわけ崔政権が、政権の延命策として対話を当局者レベルにおし込めようとするのに対し、明確な一線を画し、また韓国国内でも統一へ向け、反共法・国家保安法撤廃の闘いが高まっている。

こうした、民主統一の闘いの高揚に対し、米・日帝、韓国支配層は、一〇・二六以後数カ月の「民主」のベールを自らかき取り捨て、露骨な威嚇体制と、戦争策動を強めている。今年に入ってから、リムパツク、チムスプリング、80、マジックス80などの、史上最大規模の軍事的軍事演習の相次ぐ強行、自衛隊幹部の公然たる米韓合同軍事演習参加発言などがそれである。

今日、ソ社米・日・西欧諸帝の世界的な戦争闘争・軍事対決が激化し、東アジアもその戦場に転化している中で、八〇年代初頭にも、朝鮮人民の民主統一の革命の高揚に対し、米・日帝が、朝鮮出兵をもつて韓国全土を戦時戒厳体制におき、対ソ戦と連立・第二次朝鮮戦争へと向う可能性は大きく高まっている。文字通り、朝鮮半島をめぐる情勢は「戦争と革命」の現代史の基調を集中的に体現しており、日本労働者階級にとつて「戦争と革命」に対する態度を極めて逼迫した形で問うている。

韓国情勢の革命的激化・民主化闘争、自立的民生経済の闘いの前進と、戦争体制のエスカルトは、米・日帝から譲歩を引き出す手段と位置づけ、更に、米・日帝の対ソ戦争と朝鮮侵略反革命戦争は不可分一体に準備されている以上、前者を支持することによって後者にも武装解除し、支持しているのだ。こうして自立的平和統一にも真向から敵対している。こう

定化、新たなソ米による朝鮮分割ともいえる南北クロス承認策動の尖兵となつて、それ故他方では、南半部の民主化闘争に冷淡な態度をとり、日帝の新植民地支配・侵略反革命を隠蔽し、それには一歩も触れようしない。他方、塩見一派・立憲志士・労働党は、自立的平和統一の運動を、反ソ祖國擁護「民族統一戦線」形成の一部とし、連合政権・右翼的「労働統一」に組み込み、日帝のソ社帝との帝国主義戦争を「民主化」「民主性」を付与する運動にしている。

自主的平和統一の真の意義は何か

第二に、朝鮮人民の民族的総意である自主的平和統一に対し、観念的空論的な「革命的統一」論を主張する、中核派に代表される勢力

中核派の諸君は、反スタ主義故に、現在の南半部の当面する革命の性格は民族民主革命と、共和国でのプロ独堅持と社会主義継承革命・社会主義建設を掲げることができず、この両者が、反外勢民族

大団結「自主的平和統一」の目的の構成部分・推進力をなし、相互の連携を強めながら前進していることを把握することができず、空論的「革命的統一」「共和国を覆す」南半部の革命を対置して、結果的に朝鮮人民の闘いに混乱を持ち込

問われる四つの課題

われわれは、こうした社帝派、エセ「毛派」、反スタ派の諸潮流の混乱・墮落を粉砕し、自主的平和統一と南半部民主革命を支持し、戦争策動・侵略反革命・民族排斥主義をうち破る、国際主義的闘いを構築していかなければならない。そのために、当面、次の四つの課題が問われている。

第一は、四・一九、更に四・二五を突破口として、六月へ向け革命的戦争闘争を攻撃的に構築することである。有事立法粉砕闘争、あるいは反安保・リムパツク闘争の全体的な低減と、その中で進行する戦争体制のエスカルトに対し、われわれは大胆に、革命的戦争闘争を組織していかなければならない。今日、再び朝鮮人民に銃剣を向けるのか否かが日本人民に問われる中で、日朝・日韓連帯の最も基礎的な課題として問われなければならない。

「革命の旗」読者のみなさん、二月二十日、山武農協総代会に突然千代田事業所の移転予算案が提案・可決されて以来、現地では農協移転反対の運動がまき起つて、一部農協幹部・移転派の「移転に反対している人は少数」というデマを打ち破り、各部落末端から熱中した討論が組織されてきた。このことは一部農協幹部・移転派の、反対同盟に組織的動搖をおこさせ、一挙に移転を果そうという目論見とは逆に農民多数が反対であり、連日の部落討論でその確信を更に強めていることを示している。

二月二十八日の用地内一五戸連名による「用地内の決意」を皮切りに、横堀部落・岩山学区・千代田学区・坂志岡部落と、続々各反対同盟の部落決議があがっている。

成田用水問題は二七日に同意書が提出されて以来、農協移転を推進する人物や日共が代表になるといった事態の中で、反対同盟に反対の性格を露わにしつつ進行してきた。用水問題を空港問題と切り離すという主張は、その実、二期工事の前提とした農業を「振興」させ、空港問題をめぐる農民の決起を抑圧する反動的代物である。青年行動隊は「ただちに同意書を撤回し、釜田の問題を正しく一から考え直すべきだ」と思っています。

とした態度表明をなしている。このことは、農協移転反対を示されつつある二期工事反対の強固な意志と団結を基礎に、成田用水同意書の撤回が必要であり、それと共に反対同盟の団結をテコとした基盤整備問題の解決が不可欠であること、また農民の中から、青年隊を先頭にそうした声があがり、農民多数が用水問題を正しく解決する条件がますます拡大していることを示している。

読者のみなさん、三里塚闘争の新しい局面が創り出つつある闘争の新たな活性化と農民相互の新たな関係の構築・団結の前進・ますますその条件を整えられている一にあたって、それは同時に労働者にとっても新たな労働連帯の質を要求するものになっている。労働者が単に自らの利害を代表するのみならず、搾取人民の中核として農民の生活・生産活動・意識に深い関心を寄せ、真紅の紐帯をつくれるか否か、三里塚闘争の新たな前進はここに掛かっている。職場・学園から援隊を、

東峰団結小屋、☎〇四七六(三三)〇五〇五

東峰だより

開始された春期攻勢の

一切の成果を五・二五へ！

力阻止・空港廃港」かをめぐり、再び急ピッチで煮つめようとして、今春期攻勢の幕が、いま切つておとされたのである。

三月三〇日、三里塚第一公園に一八〇〇の労働者を集め、空港廃港全国総決起集会が開かれた。

「二期着工・空港完成」か「着工実

層は、一〇・二六以後数カ月の「民主」のベールを自らかき取り捨て、露骨な威嚇体制と、戦争策動を強めている。今年に入ってから、リムパツク、チムスプリング、80、マジックス80などの、史上最大規模の軍事的軍事演習の相次ぐ強行、自衛隊幹部の公然たる米韓合同軍事演習参加発言などがそれである。

今日、ソ社米・日・西欧諸帝の世界的な戦争闘争・軍事対決が激化し、東アジアもその戦場に転化している中で、八〇年代初頭にも、朝鮮人民の民主統一の革命の高揚に対し、米・日帝が、朝鮮出兵をもつて韓国全土を戦時戒厳体制におき、対ソ戦と連立・第二次朝鮮戦争へと向う可能性は大きく高まっている。文字通り、朝鮮半島をめぐる情勢は「戦争と革命」の現代史の基調を集中的に体現しており、日本労働者階級にとつて「戦争と革命」に対する態度を極めて逼迫した形で問うている。

韓国情勢の革命的激化・民主化闘争、自立的民生経済の闘いの前進と、戦争体制のエスカルトは、米・日帝から譲歩を引き出す手段と位置づけ、更に、米・日帝の対ソ戦争と朝鮮侵略反革命戦争は不可分一体に準備されている以上、前者を支持することによって後者にも武装解除し、支持しているのだ。こうして自立的平和統一にも真向から敵対している。こう

定化、新たなソ米による朝鮮分割ともいえる南北クロス承認策動の尖兵となつて、それ故他方では、南半部の民主化闘争に冷淡な態度をとり、日帝の新植民地支配・侵略反革命を隠蔽し、それには一歩も触れようしない。他方、塩見一派・立憲志士・労働党は、自立的平和統一の運動を、反ソ祖國擁護「民族統一戦線」形成の一部とし、連合政権・右翼的「労働統一」に組み込み、日帝のソ社帝との帝国主義戦争を「民主化」「民主性」を付与する運動にしている。

自主的平和統一の真の意義は何か

第二に、朝鮮人民の民族的総意である自主的平和統一に対し、観念的空論的な「革命的統一」論を主張する、中核派に代表される勢力

中核派の諸君は、反スタ主義故に、現在の南半部の当面する革命の性格は民族民主革命と、共和国でのプロ独堅持と社会主義継承革命・社会主義建設を掲げることができず、この両者が、反外勢民族

大団結「自主的平和統一」の目的の構成部分・推進力をなし、相互の連携を強めながら前進していることを把握することができず、空論的「革命的統一」「共和国を覆す」南半部の革命を対置して、結果的に朝鮮人民の闘いに混乱を持ち込

問われる四つの課題

われわれは、こうした社帝派、エセ「毛派」、反スタ派の諸潮流の混乱・墮落を粉砕し、自主的平和統一と南半部民主革命を支持し、戦争策動・侵略反革命・民族排斥主義をうち破る、国際主義的闘いを構築していかなければならない。そのために、当面、次の四つの課題が問われている。

第一は、四・一九、更に四・二五を突破口として、六月へ向け革命的戦争闘争を攻撃的に構築することである。有事立法粉砕闘争、あるいは反安保・リムパツク闘争の全体的な低減と、その中で進行する戦争体制のエスカルトに対し、われわれは大胆に、革命的戦争闘争を組織していかなければならない。今日、再び朝鮮人民に銃剣を向けるのか否かが日本人民に問われる中で、日朝・日韓連帯の最も基礎的な課題として問われなければならない。

「革命の旗」読者のみなさん、二月二十日、山武農協総代会に突然千代田事業所の移転予算案が提案・可決されて以来、現地では農協移転反対の運動がまき起つて、一部農協幹部・移転派の「移転に反対している人は少数」というデマを打ち破り、各部落末端から熱中した討論が組織されてきた。このことは一部農協幹部・移転派の、反対同盟に組織的動搖をおこさせ、一挙に移転を果そうという目論見とは逆に農民多数が反対であり、連日の部落討論でその確信を更に強めていることを示している。

二月二十八日の用地内一五戸連名による「用地内の決意」を皮切りに、横堀部落・岩山学区・千代田学区・坂志岡部落と、続々各反対同盟の部落決議があがっている。

成田用水問題は二七日に同意書が提出されて以来、農協移転を推進する人物や日共が代表になるといった事態の中で、反対同盟に反対の性格を露わにしつつ進行してきた。用水問題を空港問題と切り離すという主張は、その実、二期工事の前提とした農業を「振興」させ、空港問題をめぐる農民の決起を抑圧する反動的代物である。青年行動隊は「ただちに同意書を撤回し、釜田の問題を正しく一から考え直すべきだ」と思っています。

とした態度表明をなしている。このことは、農協移転反対を示されつつある二期工事反対の強固な意志と団結を基礎に、成田用水同意書の撤回が必要であり、それと共に反対同盟の団結をテコとした基盤整備問題の解決が不可欠であること、また農民の中から、青年隊を先頭にそうした声があがり、農民多数が用水問題を正しく解決する条件がますます拡大していることを示している。

読者のみなさん、三里塚闘争の新しい局面が創り出つつある闘争の新たな活性化と農民相互の新たな関係の構築・団結の前進・ますますその条件を整えられている一にあたって、それは同時に労働者にとっても新たな労働連帯の質を要求するものになっている。労働者が単に自らの利害を代表するのみならず、搾取人民の中核として農民の生活・生産活動・意識に深い関心を寄せ、真紅の紐帯をつくれるか否か、三里塚闘争の新たな前進はここに掛かっている。職場・学園から援隊を、

東峰団結小屋、☎〇四七六(三三)〇五〇五

東峰だより

開始された春期攻勢の

一切の成果を五・二五へ！

力阻止・空港廃港」かをめぐり、再び急ピッチで煮つめようとして、今春期攻勢の幕が、いま切つておとされたのである。

三月三〇日、三里塚第一公園に一八〇〇の労働者を集め、空港廃港全国総決起集会が開かれた。

「二期着工・空港完成」か「着工実

集会終了後、反対同盟を先頭とした労働者、強固なスクラムで岩山までの戦闘的デモンストレーションを貫徹し、夜には、たいまつデモで飛行阻止・闘争勝利の決意をあらわした。

わが同盟は、この三・三〇の勝利の展開にしっかりと踏まえ、全

大団結「自主的平和統一」の目的の構成部分・推進力をなし、相互の連携を強めながら前進していることを把握することができず、空論的「革命的統一」「共和国を覆す」南半部の革命を対置して、結果的に朝鮮人民の闘いに混乱を持ち込

問われる四つの課題

われわれは、こうした社帝派、エセ「毛派」、反スタ派の諸潮流の混乱・墮落を粉砕し、自主的平和統一と南半部民主革命を支持し、戦争策動・侵略反革命・民族排斥主義をうち破る、国際主義的闘いを構築していかなければならない。そのために、当面、次の四つの課題が問われている。

第一は、四・一九、更に四・二五を突破口として、六月へ向け革命的戦争闘争を攻撃的に構築することである。有事立法粉砕闘争、あるいは反安保・リムパツク闘争の全体的な低減と、その中で進行する戦争体制のエスカルトに対し、われわれは大胆に、革命的戦争闘争を組織していかなければならない。今日、再び朝鮮人民に銃剣を向けるのか否かが日本人民に問われる中で、日朝・日韓連帯の最も基礎的な課題として問われなければならない。

「革命の旗」読者のみなさん、二月二十日、山武農協総代会に突然千代田事業所の移転予算案が提案・可決されて以来、現地では農協移転反対の運動がまき起つて、一部農協幹部・移転派の「移転に反対している人は少数」というデマを打ち破り、各部落末端から熱中した討論が組織されてきた。このことは一部農協幹部・移転派の、反対同盟に組織的動搖をおこさせ、一挙に移転を果そうという目論見とは逆に農民多数が反対であり、連日の部落討論でその確信を更に強めていることを示している。

二月二十八日の用地内一五戸連名による「用地内の決意」を皮切りに、横堀部落・岩山学区・千代田学区・坂志岡部落と、続々各反対同盟の部落決議があがっている。

成田用水問題は二七日に同意書が提出されて以来、農協移転を推進する人物や日共が代表になるといった事態の中で、反対同盟に反対の性格を露わにしつつ進行してきた。用水問題を空港問題と切り離すという主張は、その実、二期工事の前提とした農業を「振興」させ、空港問題をめぐる農民の決起を抑圧する反動的代物である。青年行動隊は「ただちに同意書を撤回し、釜田の問題を正しく一から考え直すべきだ」と思っています。

とした態度表明をなしている。このことは、農協移転反対を示されつつある二期工事反対の強固な意志と団結を基礎に、成田用水同意書の撤回が必要であり、それと共に反対同盟の団結をテコとした基盤整備問題の解決が不可欠であること、また農民の中から、青年隊を先頭にそうした声があがり、農民多数が用水問題を正しく解決する条件がますます拡大していることを示している。

読者のみなさん、三里塚闘争の新しい局面が創り出つつある闘争の新たな活性化と農民相互の新たな関係の構築・団結の前進・ますますその条件を整えられている一にあたって、それは同時に労働者にとっても新たな労働連帯の質を要求するものになっている。労働者が単に自らの利害を代表するのみならず、搾取人民の中核として農民の生活・生産活動・意識に深い関心を寄せ、真紅の紐帯をつくれるか否か、三里塚闘争の新たな前進はここに掛かっている。職場・学園から援隊を、

東峰団結小屋、☎〇四七六(三三)〇五〇五

東峰だより

